

# 「SU-HOUSE 18」bridge

設計：岡村泰之建築設計事務所



上—ワークスペースからダイニングキッチン、リビング1、玄関を見る  
下左—玄関脇のリビング2  
下中—水まわり空間  
下右—南面全景



## House & Home

人と人、家族と家族、そして、  
まちをつなぐ、橋のような住まい

岡村泰之  
YASUYUKI OKAMURA

今、都心、あるいはその近郊では、高層マンションの建設ラッシュである。東急東横線の武蔵小杉駅の周辺も、大規模な高層マンションが次々に建てられている。そんな武蔵小杉駅から徒歩3~4分の所にあるのが、この住宅である。

もともと、クライアントのお父さんが住まれていた土地を3分割し、3家族で住まれることになった。その中の1つの建物が今回の計画である。商業地域で、中高層マンションでも建てられるこのエリアで、一見、経済原理とはかけ離れる、木造2階建ての住宅をつくるという計画。このまちに親戚とともに、ゆったりと住みたいという強い意志に共感し、その思いをコンセプトに託し、デザインを進めていった。

初めに、まちと建物をつなげることを考えた。駅前の商業地という立地だが、まちに閉ざすのではなく、プライバシーを保てる範囲内で、まちとの視覚的なつ

ながりを極力とれるようにデザインしている。

この住宅の建つ敷地は、3つの敷地の要に当たる部分に位置し、3つの住宅をつなぐ役割を果たしている。3つの敷地のほぼ中心近くに、みんなが気軽に集まることができる、大きな縁台のような小上がりの吹抜けスペース（リビング2）を設け、そこを中心に、各住戸がつながっていくように計画している。

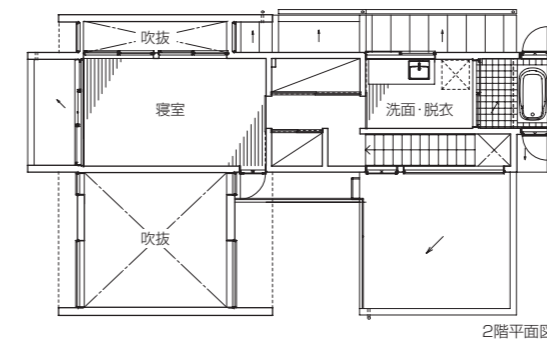
住宅そのものにも、“人と人をつなぐ”仕掛けがある。1階の玄関からリビング1、そして、ダイニングキッチンへと細長くつながる空間は、その他の居室につながる“プラットフォーム”的な位置づけにある。その部分の床には白いタイルが張られており、他の空間と異なる機能を担っている。居室と居室をつなぐ、リニアでアクティブな空間、それが白いタイルの床に象徴されているのである。また、その真上に覆いかぶさっている、黒い直方

体の大きなオブジェクトも、この住まい全体の統合を象徴している。

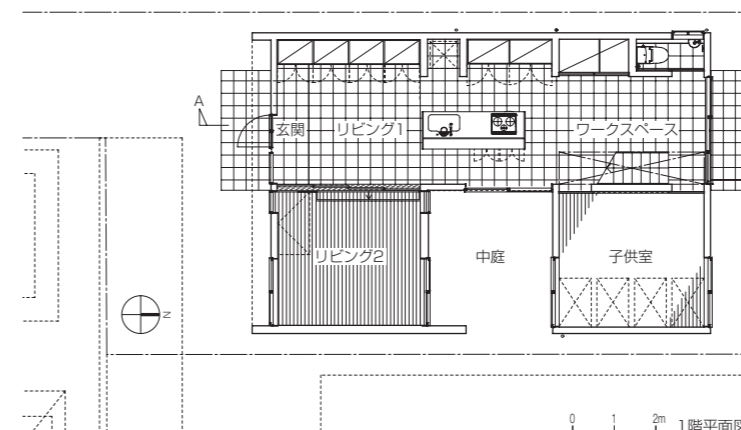
クライアントから、どこでもビールがおいしく飲める家をつくってほしいとの要望があった。どの場所においても、何かと何かがつながる空間で構成され、実面積以上に広がり、そして開放感のある空間をつくり出し、気持ちよさを確保することで、この要望に応えている。

このように、この建築は何かから何まで、何かと何かをつなぐ橋のような空間によって構成されている。何かと何かをつなぐ役割を持つ住宅であるというのが、このプロジェクトの名称「bridge」の命名の由来である。\*

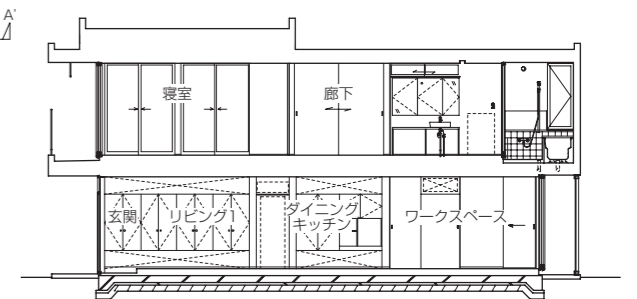
おかむら・やすゆき—建築家・岡村泰之建築設計事務所／1960年生まれ。芝浦工業大学大学院修士課程修了。藤井博巳建築研究室、SKM設計計画事務所を経て、1988年、第四建築設計社共同設立。その後、岡村泰之建築設計事務所に改称。主な作品：M-STUDIO（1993）、「SU-HOUSE 4」uta-kata（2003）、「nb」office（2003）、「FU-HOUSE 5」microscope（2005）、「RU-HOUSE 1」natures（2005）、「SU-HOUSE 16」cells（2006）、「FU-HOUSE 12」topography（2007）など。著書：『ちくわハウス』（ラトルズ 2007）。



2階平面図



1階平面図



A-A' 断面図

### ■建築概要

名称：「SU-HOUSE 18」bridge  
所在地：神奈川県川崎市  
家族構成：夫婦+犬1匹  
敷地面積：159.89㎡  
建築面積：74.17㎡  
延床面積：92.68㎡  
規模：地上2階  
構造：木造  
工期：2007.1~2007.6  
設計：岡村泰之建築設計事務所  
施工：栄港建設

●INAX使用商品●床タイル：IPF-300/FS-11,IF-300/W1、水栓金具：JF-1450SX（JW）、浴槽：ABN-1400/W91、浴室タイル：IFT-150/PU-31,NP-150NET/C ほか